

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
東京大賞典	2018/12/26	GI	大井	2000m	ミドルペース	良	3歳馬の取捨

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	マイネルリポーン	牡8	57	青柳	ロージズインメイ	ヘイロー系	スキャン	ミスプロ系	D	C	C	D	D	D		
	2	ケイティブレイブ	牡5	57	福永	アドマイヤマックス	サンデー系	サクラローレル	ナスルーラ系	A	B	A	B	A	B	△1	
2	3	スーパーステーション	牡4	57	阿部	カネヒキリ	サンデー系	ワイルドラッシュ	アイスカベイト系	C	B	C	B	C	B	×2	
	4	モジアナフレイバー	牡3	55	繁田	バトルプラン	ミスプロ系	フレンチデビュティ	ノーザン系	B	B	B	B	B	A	○	
3	5	オメガパフューム	牡3	55	Mデムーロ	スウェプトオーヴァーボード	ミスプロ系	ゴールドアリュール	サンデー系	A	A	B	B	A	B	▲	
	6	エイコーン	牡3	55	岩田	フリオーソ	ロベルト系	アドマイヤムーン	ミスプロ系	B	B	A	B	B	A	◎	
4	7	サウンドトゥルー	セ8	57	御神本	フレンチデビュティ	ノーザン系	フジキセキ	サンデー系	B	A	A	C	B	B	△3	
	8	ヤマミダンス	牝4	55	中島龍	ハーツクライ	サンデー系	Timber Country	ミスプロ系	D	B	D	D	D	D		
5	9	フレアリングダイヤ	牡3	55	井上	ストロングリターン	ロベルト系	ブラックホーク	ノーザン系	D	B	C	D	C	C		
	10	リーゼントロック	牡7	57	松岡	ダイワメジャー	サンデー系	A.P. Indy	ナスルーラ系	D	C	C	B	D	D		
6	11	クリソライト	牡8	57	戸崎	ゴールドアリュール	サンデー系	エルコンドルパサー	ミスプロ系	C	B	B	B	B	B	×1	
	12	ワークアンドラブ	牡3	55	真島	シニスターミニスター	ナスルーラ系	Medaglia d'Oro	ノーザン系	D	A	C	C	C	C		
7	13	ゴールドドリーム	牡5	57	ルメール	ゴールドアリュール	サンデー系	フレンチデビュティ	ノーザン系	A	A	C	B	B	B	△2	
	14	コスモブランデス	牡4	57	千田	マツリダゴッホ	サンデー系	シャンハイ	ミスプロ系	D	C	D	D	D	D		
8	15	グルームアイランド	牡7	57	矢野	ヤマニンセラフィム	サンデー系	サクラチヨノオー	ノーザン系	D	A	D	D	D	D		
	16	アポロケンタッキー	牡6	57	マーフィー	Langfuhr	ノーザン系	Gone West	ミスプロ系	C	A	B	C	B	C		

隊列図	見解	ラップタイム
スーパー クリソ アポロ ヤマミ リーゼ ケイテ オメガ ゴール エイコ フレア モジア ワーク サウン グルー コスモ マイネ	<p>(前略) 今年の9月以降、牡馬混合のダートグレードで3歳馬が出走していたレースではすべてで3歳馬が2着以内に好走。コアな競馬ファンの方であれば、今年の3歳ダート路線がハイレベルなことに気づいているかもしれないが、3歳馬の活躍は本当に目覚ましい。南関東に目を向けても、東京大賞典の前哨戦的な意味合いが濃い勝島王冠では3歳のモジアナフレイバーが勝利し、3着にも同年齢のリコーワルサー。古馬の大將格ヒガシウィルウィンがまさかの2着に敗退し、キャプテンキング、リッカルド、ディアデルレイなどの強豪をあっさりと退けてしまった。J R A、地方の古馬ダート路線を大局的な視座で見ると、今年の東京大賞典はケイティブレイブ、ゴールドドリームの既存勢力に賭けるのではなく、新興勢力で勢いのある3歳馬にすべてを賭けたい。それでは予想にいきます。</p> <p>本命はエイコーンが一気にG 1の頂点まで上り詰める。春は500万下で2着続きだったが、夏に休養を経たことで馬が完全に覚醒した感じ。(以下省略)</p>	回顧 次走狙い馬
ミドルペース		

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	マイネルリポーン		4走前に地元で行われた白山大賞典5着が精いっぱい走り。G1では相手が強過ぎる。		
	2	ケイティブレイブ	△1	前走チャンピオンズカップで不可解な敗戦を喫したが、馬体重の増加とコースの問題と見てよさそう。今回は【1.3.1.0】と崩れていない大井2000m。馬体重も絞れてくるはずで、巻き返してくる可能性が高いのではないか（馬体重は510キロ台なら力を出し切れると判断します）。		
2	3	スーパーステション	×2	前走道営記念の勝ち時計2分5秒3は、馬場差こそ今年のプリーダースゴールドカップを圧勝したラビットラン（2分5秒6）よりも速い時計。地元でのパフォーマンスをそのまま発揮できれば、展開次第で有馬記念のオジュウチョウサン以上に見せ場を作ってくれるのではないか。		
	4	モジアナフレイバー	○	勝島王冠では今年の帝王賞で勝ち馬ゴールドドリームから1.0秒差の5着に健闘したヒガシウィルウィンに0.6秒差をつけており、ヒガシウィルウィンを基準に考えると少しの上積みさえあれば、ゴールドドリームと遜色ない走りを見せても不思議ではない。		
3	5	オメガパフューム	▲	JBCクラシックでは勝ち馬ケイティブレイブから0.1秒差の2着に好走。あと一歩で古馬G1制覇に手が届くところまで来ており、勢いのある鞍上を迎えてケイティブレイブとの着順が入れ替わる可能性は十分にある。前走チャンピオンズカップは乗り方ひとつでもっと上の着順に入っていただろう。		
	6	エイコーン	◎	春は500万下で2着続きだったが、夏に休養を経たことで馬が完全に覚醒した感じ。父フリオーンはご存知の通り、帝王賞を制しており、大井2000mのG1馬。ロペルト系自身、大井2000mの特注血統であり、血統的にも大井2000mはいかにも合いそうだ。		
4	7	サウンドトゥルー	△3	上位勢にやや劣るも、モジアナフレイバーやエイコーンらの差が決まるとすれば、ノーマークには出来ない。大井2000mのG1では【2.2.3.1】と抜群の安定感。勝ち負けはともかく馬券圏内に入ってくることは想定しておきたい。		
	8	ヤマミダンス		前走中日杯で見事な逃げ切り勝ちを収めたが、1枠1番から行き切れたのが大きかった。ガチンコ勝負の大井2000mでは向上面で脱落しているだろう。		
5	9	フレアリングダイヤ		門別中距離で堅実な走りを見せているが、それもA2での話。A1ではおそらく通用しないはずで、JRA勢のトップクラスがそろそろG1ではとても歯が立たない。		
	10	リーゼントロック		全盛期ならともかくピークを明らかに超えてのG1挑戦。苦戦必至だろう。		
6	11	クリソライト	×1	常識的に厳しいかもしれないが、スーパーステションが楽逃げを打てば、展開の恩恵を受けそう。大井2000mはジャパンダートダービー1着、15年・17年帝王賞2着と相性のいい舞台。地力では劣っても展開利とコース適性の高さで上位に食い込んでくるかもしれない。		
	12	ワークアンドラブ		前走楠賞は距離不足のため2着に敗退。中距離ではしぶとい走り続けているが、それも地方馬同士の話。スーパーステションに全く歯が立たないのを見ても、G1では力不足が露呈するだろう。		
7	13	ゴールドドリーム	△2	今年の帝王賞でケイティブレイブを下しているが、当時はルメール騎手が内に潜り込み、絶妙なコース取りが利いたのも事実。力で押し切ったというレースでは決してなく、外目の枠から仮に外々を回るとすれば、ケイティブレイブに先着するのも難しいのではないかと。		
	14	コスモブラシデス		地元のB3で大敗続き。参加するだけだろう。		
8	15	グルームアイランド		南関東重賞でも掲示板が精いっぱいの現状。G1では相手が強過ぎる。		
	16	アポロケンタッキー		デンにダッシュが利かず、かつ揉まれ弱いという非常に難儀な馬。その意味で大外枠を引けたのはプラスだが、近走のレースぶりが明らかに淡泊になっており、この大舞台で復活するイメージが全く湧かない。バツサリと切っていいのではないかと。		